

**令和3年（2021）年度
自己点検・自己評価報告書**

2022年3月30日

公益社団法人北部地区医師会 北部看護学校

1 本年度の重点目標と達成度

教育理念・目標	令和3年度重点目標	重点目標・計画の達成度	課題の解決策
<p>【教育理念】 人間尊重を基本とし、時代の変化に対応できる幅広い能力をそなえ、看護の発展に貢献できる有能な人材の育成をめざす。</p> <p>【教育目的】 豊かな人間性を基盤とし、看護に必要な知識、技術、態度を習得し、社会に貢献し得る看護師を育成する。</p> <p>【教育目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命を尊重する倫理観を備え、対象を幅広く理解する能力を身につける。 2) 対象の健康問題を捉え、科学的根拠に基づいた看護実践ができる能力を身につける。 3) 保健医療福祉チームの一員として、看護の役割を遂行する能力を身につける。 4) 社会の動向に関心を持ち、専門職業人として継続的に学習する姿勢を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育理念・教育目標の達成 2. 学生の質向上 <ol style="list-style-type: none"> 1) 豊かな人間性を育む人材育成 <ol style="list-style-type: none"> ① ボランティア活動 ② 地域の行事 ③ 実習施設行事への参加促進 2) 学生の能力に応じた計画的な指導 <ol style="list-style-type: none"> ① 成績不良の学生に対する個別指導の強化 ② 自発的に調べる、考える、表現することができる授業方法を実施 3. 国家試験全員合格への支援（100%合格を目標） <ol style="list-style-type: none"> 1) 各学年で計画した国家試験対策 2) 1年次から成績不良者の個別指導 4. 教員の質向上 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新人専任教員の研修、実習指導教員の指導力の向上 2) 日本看護学校協議会学会、各種看護学会への参加 3) 沖縄県看護教育協議会 専任教員再教育研修の参加 4) 教員のモチベーションアップのための目標管理の実施及び評価。 5) 学生の主体的な学びを育むための 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学年目標を意識しながら関わることができた。卒業生像の達成度について、卒業直前にアンケート調査を実施した結果、全ての項目について達成できた。 2. 2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティア活動は中止となり、地域の行事への参加もできなかった。成績不良の学生に対して、個別に対応することができた。 新型コロナウイルス感染拡大防の影響を受け対面授業や臨地実習ができない場合もあったが、Web授業等で教育内容の充実を図った。 3. 1年次から国家試験対策を実施してきたが、国家試験合格率は91.1%と低い結果となってしまった。不合格者の分析を行い対策方法の課題を明確にした。次年度に活かす。 4. 2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートでの研修が主であったが、研修後は職員全員、研修報告会を行い学びの共有を図った。教員のモチベーションアップのための目標管理の実施及び評価の面談をキャリアラダーに基づき年2回実施できた。実習施設と連携しアシスタントティーチング（TA）学生指導を行うことができた。 	<p>18歳人口の減少に伴い、学生確保が困難になることが予測される。そのため、広報活動を強化していく必要がある。</p> <p>また、魅力ある学校づくりのための新カリキュラムを構築した。 より、特色のある教育内容を充実させていく。 国家試験の高合格率、教職員の資質の向上、学校の将来構想など、より一層の魅力を発揮していく。</p>

	<p>教育方法の充実</p> <p>5. カリキュラムの質向上</p> <p>1) 現カリキュラム運営と評価</p> <p>2) カリキュラム検討委員会の発足</p> <p>3) 授業評価の継続</p> <p>6. 学生の臨地実習環境の整備</p> <p>1) 効率的な実習指導体制づくりの強化 (実習施設との連携・協力体制)</p> <p>2) リスクマネジメント指導及び守秘義務遵守および指導</p> <p>7. 入学生・卒業生への支援</p> <p>1) 高等学校のキャリア教育への協力 (看護の仕事出前授業、施設見学等)</p> <p>2) 学校案内、ホームページの充実</p> <p>3) ホームカミングの実施</p> <p>8. 地域に開かれた魅力ある学校づくりの推進</p> <p>1) 学校情報、学校評価、学校関係者評価、財務諸表等のホームページ公開</p> <p>2) ホームページの充実</p> <p>9. 学校運営の安定化</p> <p>1) 休学者・退学者の低減</p> <p>2) 予算執行の遵守</p>	<p>5. 新カリキュラム構築に向けて、現カリキュラム評価を教員全体で実施し、第5次新カリキュラム構築を行った。授業評価については毎年、全科目実施できている。しかし、教員全員での共有ができていないことが課題となるため検討。</p> <p>6. 実習指導者と連携し、効果的な実習指導ができたが、コロナウイルス感染拡大のため学内実習が多かったが、整備した電子カルテの活用をする等実践により近い状況で学内実習に取り組んだ。</p> <p>7. 2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になることもあったが、積極的に取り組むことができた。</p> <p>卒業後5か月目にホームカミングを計画していたがコロナ禍により中止となった。</p> <p>8. 自己点検・自己評価、学校関係者評価、教育課程委員会を実施した。客観的評価を受けて学校運営の改善に活かすことができた。ホームページを刷新し、学校情報をホームページに公開することができた。ホームページを刷新し、学校情報が見やすくなったが広報委員会を立ち上げ更に充実を図る。</p> <p>9. 学校経営の安定化</p> <p>2021年度は休学者3名、退学者5名と多い結果となった。退学の理由は進路変更が主だった。</p>	
--	---	---	--

基準1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【教育理念・目的・育成人材】 教育理念・教育目的・教育目標・期待する学生像は学則・学生便覧や学校案内等で具体的に示しており専門職の特性を明文化している。理念を実現するための教育目的・目標を明示している。理念の実現に向けて、各分野の授業評価を実施し、新カリキュラム構築に向けて取り組んだ。</p> <p>人間尊重を基本とし、時代の変化に対応できる幅広い能力をそなえ、看護の発展に貢献できる有能な人材の育成人材像とともに、ディプロマポリシー（専門士授与方針）を明文化、その実現に向けてカリキュラムポリシー（教育方針）に基づいて教育課程を編成した。また、教育理念・目的に加えアドミッションポリシー（入学時の受け入れ方針）も明文化し、第5次カリキュラム構築を行った。</p> <p>教育課程については2022年度のカリキュラム改正に向けて全教職員が改正の趣旨を理解し、社会のニーズに合ったカリキュラムの完成を目指して取り組んだ。令和4年3月12日に県の承認を受けた。</p> <p>看護学臨地実習は厚生労働省に認可された実習施設の協力を得て実施している。</p>	<p>入学前プログラムとして、推薦入学合格者に対して国語、数学、微生物学、物理学、英語の基礎学力試験を5回シリーズで実施している。</p> <p>特徴ある教育活動</p> <p>【協同学習】 教育活動の工夫としてシナリオを作り、学生が主体的に学べるようアクティブラーニングを一部取入れたり、グループ学習を積極的に取り入れている。</p> <p>【ユニフケーションシステム】 学内での看護技術演習（基礎看護学、小児看護学、老年看護学）では実習施設の指導者の参加を求め、教育力の向上を目的に意見交換している。</p> <p>【プロジェクト学習】 学生の主体的な学習への取り組み支援として入学オリエンテーションを強化している。また、ポートフォリオを活用し年2回、目標達成に向けて到達度の面接などを行っている。</p> <p>卒業生に対しては、卒後5か月目、ホームカミングデーを実施し、卒業後の精神的支援を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行事の中止を余儀なくされた。</p> <p>コロナ禍でも学生の学びを止めないためにシナリオ作成し、シュミレーション学習ができるよう授業案を作成する等電子カルテを活用する等学内実習の充実を図った。</p>

基準 2 学校運営

大項目総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【運営方針】 教育理念・教育目的・教育目標を達成するための運営方針を明確に定め、年度初めに職員に周知した。学校関係者評価の結果を踏まえ、次年度の運営方針を明確に定め、教職員全員で取り組んだ。また、今年度は職業実践課程の承認を受けることができた。</p> <p>学校運営に関して、教職員及び学生会、同窓会は組織規定を明確にしており、教職員の採用基準は、「看護師等養成所における看護教員に関する規程」に準じ専任教員となることができる条件を満たした者を採用しており、法人の協力を得ながら必要な人材を確保している。看護教育に携わっていきそうな看護師に声かけをするなど人材確保に向けて継続課題とする。</p> <p>【事業計画】 本校は、職員会議の場が意思決定の場であり、会議規程を定め、定例会議等を開催し議事録は開催毎に作成している。教職員の研修計画を積極的に計画し、職員が自己研鑽できるように努めている。また、今年度より研修報告会を実施し職員全体で学びを共有し、教育の質の向上を目指している。</p> <p>学生の主体的な学修活動を支援、業務の効率化を図るために教務クラークを採用し、教員の事務業務の煩雑さが軽減されている</p> <p>【運営組織】 教育理念、目標達成を目指した学校運営を行うために、第5次カリキュラム改正に伴い、組織図の見直し、諸規定の改廃、会議・委員会の開催などを行いその整備を行った。</p> <p>【人事・給与制度】 職員採用に関しては、母体病院内での異動も含めた対応が行われ、適切な人員を配置している。しかし、5年以内に徐々に進む定年退職者の増加に伴う、看護教員の採用が重要な課題である。</p> <p>【意思決定システム】 法人の組織の目的・事業計画の中で、組織図を明確にし、職員の職責・業務分掌等において意思決定システムを明確化している。</p> <p>意思決定システムとして組織図を明確にしており重要な決定事項に関しては医師会理事会を経て決定している。</p> <p>【情報システム】 情報管理システムが確立しておらず、フォルダの共有化等の業務の効率化を図る必要がある。また、セキュリティ体制を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の運営方針を明文化している。 ・年度初めに重点目標事業計画を提示し周知している。 ・学校関係者評価を踏まえ業務改善に取り組んでいる。 ・受験者応募者の獲得に向けて、広報活動や進学説明会には管理者と事務職員が学校訪問し、取り組んでいるが、今後は職員全体で取り組んでいきたい。 ・新事業として図書システムの導入を検討している。 ・ICT教育を見据えてWi-Fi環境を整備している。 ・教育事業計画や教育理念をはじめ、教育組織、重点目標、教育事業計画、会議計画、会議組織、教職員の業務分掌等を明確にし、重点目標を達成していく。 ・2021年度より、学内の業務改善の報告会や研修報告会を実施した。事務部も一緒に教育の質を高めるための取り組みを実施した。 ・就業規則や各種諸規定は共有フォルダーから閲覧できるように担当者を決め進めている。継続課題とする。

基準 3 教育活動

総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【目標の設定】 厚生労働省保健師助産師看護師指定規則を遵守し、教育理念・教育目的・教育目標を反映した教育課程を編成している。全科目（実習含む）の学生による授業評価を実施している。全学生学校評価に関するアンケート調査を実施した。学生の意見を反映しながら次年度に活かしていく。 教育課程への外部の意見は実習指導者会議の中で情報交換を行っているが、一部にすぎないため、実習施設に積極的に出向いて情報交換を行っていきたい。実習病院には本校の卒業生が認定看護師、専門看護師の資格を有して活躍しているため、卒業生に講義等を依頼することにより、キャリア支援に繋げていきたい。学内演習にはティーチングアシスタント（TA）の意見を反映させている。キャリア教育に関して、学生は入学後、個人目標シートを作成し3年間を通して面談を実施しながら達成度を確認している。</p> <p>【教育方法・評価等】 成績評価の基準は学生便覧に明示し入学時に学生及び保護者に説明している。単位認定・卒業認定は認定会議において、適正に判定している。また、社会人入学生に対しては入学前に履修科目の単位互換を行い本校の規程に沿って認定している。 看護師免許取得に向けて看護師養成所の運営するガイドラインを遵守し、全ての科目を必修科目とし構築している。 授業においては、経験や地域の方との交流から学ぶことを大切に、フィールドワークを多く取り入れたカリキュラムを構築している。</p> <p>【成績評価・単位認定】 学則、及び履修規程に則り実施している。</p> <p>【資格・免許取得の指導体制】 看護師資格取得の意義、目標、免許取得までを明確にし、1年次から学習支援を行っている。 1年次から業者による対外模擬試験を年間を通して実施している。</p> <p>【教員・教員組織】 看護教員の資格を備えた教員を採用しており、看護や教育の本質を継続的に実施するとともに、教育力の強化や資質向上のための学会・研修会等の参加を</p>	<p>新カリキュラムに向けて、アドミッションポリシー（入学受け入れ方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成）、ディプロマポリシー（卒業生像）を明文化した。</p>

促すとともに沖縄県看護教育協議会への研修に参加し、より質の高い教育を実践できるよう努力している。
授業研究の実施が出来ていないため課題とする。
教員の確保については、指定規則に則り人材を採用し、計画的に専任教員養成講習会を受講できるように支援している。2022年度は沖縄県で開催されるため3名の受講生を予定している。また、教務主任養成講習会を受講できるように努力する。

基準 4 学修成果

総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【就職率】 就職率 100% を目標に設定している。 設置主体の北部地区医師会への就職率 (33%)、今後は、更に北部ケアセンター設立に向けて就職率がアップするように指導を行っていく。今年度の就職率は 100%、進学者 2 名 (保健師・大学への編入) 休学者 5 名 (家庭の都合・精神面・妊娠)、退学者 1 名 (進路変更) 残念な結果となった。 就職率の向上に向けて、2 年次早期から県内の就職説明会を実施している。学生の希望や適性に合わせ就職決定の支援をしている。</p> <p>【資格・免許取得率】 国家試験対策委員会を中心とした国家試験対策を 1 年次より行っている。学習成果として学習面・精神面のサポートを継続的に行っている。 3 年次は 4 月から国家試験オリエンテーションや個別面談を行い継続的な学習支援とともに業者・教員による国家試験対策授業、対外模擬試験、学校の開放などを行っている。 国家試験対策の大幅な見直しを行っていく必要がある。 入学時から国家試験出題基準を意識させ取り組んでいるが、動機づけが弱いため 3 年次に焦っている現状があるため、自己分析する力をつけ自己教育力を高めるような支援を行っていく</p> <p>【卒業生の社会的評価】 卒業生の実態把握が不十分であり、今後、卒業生の活動状況を把握できるように具体的な取り組みを検討する。</p>	<p>【就職率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年 2 年、3 年次に就職説明会を開催し医療施設への就職率の向上に努めている。特に設置主体である北部地区医師会施設への就職率の向上に努めている。 ・学生の希望や適正に合わせた就職相談に丁寧に対応している。また、3 年相談係を主に論文の書き方、面接指導等の支援をしている。 <p>卒業生が来校した時には同じ進路を志望している在校生の相談を受けてもらっている。卒業生との情報交換会の場を積極的に設けるようにしている。 実習施設に就職した卒業生については、実習時などの機会を通して、活動状況を把握するようにしている。 学会参加に合わせて、県外就職の卒業生については、学会参加に合わせて施設訪問を実施し、現状把握を行っている。今後も継続していきたい</p>

基準 5 学生支援

総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【就職など進路】 就職進路相談の支援体制は整っている。就職場所に迷っている学生に対しては、クラス担当教員が中心となり適宜相談に受けている。また、論文作成や面接については直接指導を行っている。 2年次に対して業者による「就活セミナー」を実施した。 内容としては、面接マナー、就職先の選び方、面接の受け方等。 学生の悩み等については学年担当教員が丁寧に関わっている。また、スクールカウンセラーも無料で保護者も含めて活用できるシステムがあるが、今年度もコロナ禍により活用できていない。</p> <p>【中途退学への対応】 教員が学生の悩みや相談に適宜対応しており、カウンセリングを受けるまでに至っていないことも考えられる。 今年度の学生面談件数は、1年次：13件、2年次：21件、3年次45件、合計：79件の面談を実施した。</p> <p>【学生相談】 学年毎に4名の相談係を配置しており、どの教員にでも相談ができる状況をつくっている。</p> <p>【学生生活】 3年間有意義な学生生活ができるように奨学資金貸付制度についての説明会を入学前から設けており、北部地区医師会の奨学資金制度についても担当者から説明をしてもらっている。 学生の健康管理では、学校健康診断、抗体価検査、予防接種計画を定め、年1回の学校健診を実施し、2次検査が必要な学生には随時指導を行っている。</p> <p>【保護者との連携】 保護者へは入学式後に保護者会を開催し学校の教育理念・目標及び教育課程・学生生活等の説明会を実施している。</p>	<p>【学生への就職・進路支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2, 3年次に5月に就職説明会を実施している。 ・3年次に対する就職・進学指導、個別相談、面接態度、履歴書の書き方、論文対策を実施。 ・学年担当が相談窓口となり学生を支援している。 ・5階図書室前と図書室内に各施設の就職案内コーナーを受け情報を掲示している。 ・県外就職の卒業生に対し就職先の訪問を実施している。 ・学業や精神面のサポートを丁寧に行っている。 <p>【学生へ紹介している奨学金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公益社団法人北部地区医師会の奨学金制度。 ②日本学生支援機構 ③沖縄県看護師修学資金 ④教育訓練給付金 ⑤交通遺児育英会奨学金 <p>【保護者との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後援会総会・評議委員会を年1回開催し情報交換を行っている。 ・卒業5か月目にホームカミングを開催している

学生の成績や進路の迷い等については保護者との連携を密にし、3者面談を行い問題解決に繋げている。

6月には後援会総会を実施し、保護者との交流会を図っている。

後援会より図書費・国家試験対策・教員研修費の支援がある。

【卒業生・社会人】

卒後5カ月目にホームカミングデーを開催しているがコロナ禍により実施できていない。卒業後の研究活動支援として図書室を開放している。

また、国家試験不合格の学生に対して国家試験対策支援を行い施設を開放している。

卒業生の母校訪問を受け入れ悩み等についてサポート体制を整えている。

社会人学生への支援は、入学前に履修した科目の単位認定を行っている。

- ・卒業生に対し研究活動の支援として図書室を開放し、個別の相談を行っている。
- ・国家試験不合格者に対して、国家試験対策の支援や施設の開放を行っている
- ・社会人学生に対し入学前に履修した科目の単位認定を行っている。

基準 6 教育環境

総括と課題	
<p>【施設・設備など】 学内の教育環境として、学校の施設・設備・機器類は設置基準、関係法令に適合し実施している。図書室に関しては、基礎分野 1,224 冊、専門基礎及び専門分野図書 7,284 冊、学術雑誌 42 種類、整備されている。文献システム、メディカルオンラインを 2020 年度に導入し文献検索や看護研究に役立てている。 図書に関しては、卒業生も図書室を利用することが可能である。 新型コロナウイルス感染対策としてサーモグラフィー体温計・全館 WI-FI 環境を整備し遠隔授業に対応できるようにしている。更に今年度は電子カルテを導入し学内実習の強化を図った。 校舎は外壁工事を完了したが、施設内の環境も整備が必要。エレベータ点検は 1 回/月、定期的に修繕工事やワックスがけ等も実施している。</p> <p>【学外実習・インターシップ等】 関係法令に則り、学外実習を行っている。 臨地実習は看護実践力を育成するために重要であり、学修成果の向上を目指して実習環境を整えている。各実習施設と調整を行い、より良い学びができるための実習施設の確保に努めている。実習施設と実習調整会議を行い、指導者との連携をとっている。 インターシップについては、医療機関等から案内があれば学生に周知している。</p> <p>【防災・安全管理】 臨地実習等の安全管理については学生便覧に規程している。 また、防災の観点からは、警備会社と契約し夜間の機械警備を行っている。学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動マニュアルを整備し、学生・職員を対象に毎年、避難訓練を実施している。 施設・建物・設備の耐震化を確認し、消防設備等の整備や保守点検を法令</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の教育環境として、学校の施設・設備・機器類は設置基準、関係法令に適合し充実している。図書も専門書や関連書籍、雑誌や新聞、DVD 等も卒業生も利用できるようになっている。 ・コロナ禍の対応として、学内実習を円滑にするため電子カルテを購入・Wi-Fi 環境を整備している。 ・駐車場に関しては無料で学生数完備されており危機管理上、校内に 2 台の防犯カメラを設置している。 ・危機管理については警備会社と提携し管理を行っている。 ・緊急時の体制を整えている。

に基づき適切に対応している。
学生の避難時の水分は確保されているが、避難食の確保がされていないため早急に準備を進める。
また、学生は総合保障制度に加入し、登下校時や学内・実習先での障害・賠償・感染等の補償対応が可能となっている。

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【学生募集活動】 学生募集に関して、「学校案内」を作成し学校説明会を開催している。また、教職員は高等学校主催の職業教育や学校説明会で看護職や教育課程について説明を行っている。 高等学校主催の職業教育で「看護のしごと」について出張講義を3回/年、実施した。また、中学生の職業体験も受け入れ看護の仕事について、講義や演習を体験させている。 外国人受け入れに関しては規程を作成したが受け入れ体制ができていないため検討課題としている。 オープンキャンパス2回/年、1回目は看護の日にちなんだオープンキャンパス、2回目は学校のPR目的で実施し、企画・運営を学生が中心に行っている。今年度はコロナ禍により、7月にリモートで1回実施。</p> <p>【入学選考】 入学選考にあたっては、入試形態毎の募集要項の選考方法に基づいて実施している。願書受付は、入学試験規定により適切に行われている。 入学試験に関しては県内看護大学系3校、専門学校5校の入試計画を把握し本校の入学試験を計画している。入学選考基準や方法は、規程に基づき適切に行われている。教員評価会議・合否判定会議の2段階を経て決定し公平性を確保している。全教員が判定会議に参加している。 受験者・受験倍率・合格率・辞退率のデータは適切に管理できている。ホームページで入学情報を提示している。</p> <p>【学納金】 学納金や在学中に必要な経費については、募集要項にも詳細を明示するとともに、保護者会等で内容を説明している。 学納金の内容は明確で、学納金等徴収する金額はすべて募集要項に掲載している。文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取り扱いに対して、募集要項やホームページに明示し、授業料の返還を行なっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校概要、受験対策の過去問題集も提示している。 ・学校案内を実習病院や高等学校に配布している。 ・オープンキャンパスは2回/年、1回目は看護の日にちなんだオープンキャンパス、2回目は学校のPR目的で実施し、学生が企画・運営について中心に行っている。 ・各高校で職業教育 ・各高校で学校説明会 ・小・中学校の職業教育の受け入れを行っている。 ・受験生の個別相談に対応している。 ・入試作問者と検討会を持ち、問題と正解率の分布等の分析から入学生の傾向を抽出している。 ・推薦入学試験合格者に対して、業者を活用し入学前試験を5回シリーズで実施している。試験結果を把握し学生の状況把握を行い指導に役立てている。

基準 8 財 務

総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【財務基盤】 本校の経営状況は順調に推移している。 財務状況について学生定員の充足率は良好。県の補助金・県医師会の補助金等により学校の財務基盤は安定している。学校運営は本校の教育理念、教育目標を達成するため計画的な予算編成を行い、執行に当たっては経費削減を意識し、適正なチェック体制により執行している。また公認会計士による財務確認と医師会評議委員会の監事による監査を受けいずれも適正であると認められている。</p> <p>【予算・収支計画】 本校の業務は法令に等に従い適正に実施されている。また、事業報告書は法令に従い本校の状況を正しく示している。</p> <p>【監査】 顧問会計事務所の公認会計士による定期監査を実施し指導を受けている。学校の財務基盤は安定しており、適切に会計監査を受けている。本校の業務は法令に等に従い適正に実施されている。また、事業報告書は法令に従い本校の状況を正しく示している。</p> <p>【財務情報の公開】 財務情報公開体制の環境も整い情報公開している。 本校の経営状況は順調に推移している。財務状況について学生定員の充足率は良好。県の補助金・県医師会の補助金等により学校の財務基盤は安定している。学校運営は本校の教育理念、教育目標を達成するため計画的な予算編成を行い、執行に当たっては経費削減を意識し、適正なチェック体制により執行している。また公認会計士による財務確認と医師会評議委員会の監事による監査を受けいずれも適正であると認められている。 顧問会計事務所の公認会計士による定期監査を実施し指導を受けている。 財務情報公開体制の環境も整い情報公開している。 予算規程が整備されておらず課題としている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県及び沖縄県医師会からの財政支援は、学校運営を円滑にしている。

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【関係法令、設置基準等の遵守】 関係法令の設置基準に基づき、学校運営を行っている。学校運営に必要な規則・規程等を整備し適切に運用している。 教職員、学生に対し法令違反、学則違反に関する相談窓口は設置されている。また、投書箱を設置し学生の意見を取り入れている。</p> <p>【個人情報保護】 個人情報保護規程に基づき適切に運用している。 学生へは個人情報保護・管理、SNS の取り扱い、通信機器等のマナー等については、学校生活の中や実習前ガイダンスで周知している。 コロナ禍により、オンライン講義や実習が導入されたことで、紙媒体やデータ等の管理を適切に行う必要がある。遠隔授業に伴う情報管理に関する倫理教育を行い誓約書にサインをしてもらっている。 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催し客観的な評価を頂き、業務改善に取り組む。 評価結果に基づき目標、具体策を検討し学校の業務改善に取り組んでいきたい。 ハラスメント等の防止について規定を整備した。 「働き方改革」に向けて、36 協定を結び実施し、残業の軽減に取り組んでいる。また、教務の事務作業の煩雑化を軽減するため教務クларクを 1 名採用することにより、業務改善に繋がった。</p> <p>【学校評価】 学校関係者評価委員・教育課程編成委員会を開催し、客観的な評価を学校運営に活かし、学校の質を高めることに繋げている。 学校関係者評価も併せて報告書に取りまとめホームページで公表している。</p> <p>【教育情報の公開】 学校の概要や教育内容、自己点検・自己評価の結果をホームページに公開している。</p>	<p>【36 協定の締結】 ・「働き方改革」に向けて、全員が正しい知識を持って取り組む必要があるため、社労士の学習会を企画する。</p>

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>【社会貢献・地域貢献】 教員においては、沖縄県看護協会主催の実習指導者講習会・看護教員養成講習会に講師として派遣している。教育実習生の受け入れ等を行っている。 卒業生、実習関連施設職員に対し、図書室の利用、図書の貸し出しを行っている。また、国家試験不合格者に対して国家試験対策の支援を行い施設利用も許可している。</p> <p>中学校・高等学校が行うキャリア教育の依頼を受け看護師志望者の獲得に繋がるよう活動している。 SNS 等の情報管理については、毎年外部講師を招いて 1 学年を対象に SNS と個人情報について外部講師による特別講演を実施した情報管理についての研修を職員も学生と一緒に受講している。</p> <p>【ボランティア活動】 ボランティア活動に関して、新たな知識や対象理解、コミュニケーション力など多くの学びが得られるため奨励している。 実習施設関連や地域からの依頼については学生会ボランティア担当者と学生会担当教員が中心となっているが、今年度はほとんど出来なかった。 2 年次は社会福祉論の科目でボランティア活動を位置づけている。また、老年看護学の講義の一環として、「地域で暮らす健康な高齢者を知る」目的でグランドゴルフ大会に参加し交流を図っている。また、老人会の運動会に参加することで、地域の高齢者の特徴を学ぶ機会になっている。 今後は感染状況をみながら、積極的な活動が継続できるよう職員全員で取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動については、感染状況をみながら積極的に取り組んでいる。 <p>【献血協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年、卒業記念献血として、全学生・職員を対象に献血に協力している。 ・ 本校の事務職員を北部地区の県立高等学校 2 校に韓国語の講師として派遣している。 <p>【カリキュラムの一環】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年次：老年看護学で「地域で暮らす高齢者を知る」目的で高齢者とグランドゴルフに参加させていただき、コミュニケーションを図り特徴を学んでいる。 ・ 社会福祉論Ⅱ（1 単位 15 時間）中、8 時間をボランティアに位置づけし、実習施設や地域からの依頼を受けボランティアに参加している。